

建設産業活性化センターの取組

秋田県では、建設産業団体や教育機関等と一体となって、
新4K（給与が良い、休暇が取れる、希望が持てる、カッコいい）の実現を目指しています！
若者・女性の雇用に向けて、賃金水準の向上や建設ICT、週休2日制の導入を推進するなど、
男女ともに働きやすい建設産業となるよう取り組んでいきます！

高校生、大学生等と企業の マッチングを進めます！

センター職員が、企業・学校をつないで、
人材の確保・育成をサポートします！



高校での企業説明会



建設ICT現場見学会



けんせつ女子PRイベント



インフラ資産(道路、ダム等)の魅力発信

建設産業のイメージアップを 推進します！

ガイドブック、情報誌、PRイベント、SNS等を通じて、
建設産業で働くことの面白さや魅力を発信します！

県内の就職情報、企業情報等は下記QRコードからご覧ください

秋田県建設業協会が運営するアキケンチャンネルでは、
就職情報のほか、建設産業における女性の活躍や建設産業に関するニュース、イベント情報等を発信しています！

アキケンチャンネル



秋田県就活情報サイト「こっちゃけ」には、700社以上の県内企業が登録しており、インターンシップ情報や先輩社会人の声を掲載しています！

秋田で暮らそう、働こう！
KocchAke! こっちゃけ!



秋田県建設企業ガイドブックには、建設企業(土木、建築、電気、設備、測量等)167社の企業データのほか、企業のアピールポイントや先輩社会人からのメッセージも掲載しています！

この情報誌に関するお問い合わせ先

秋田県建設産業活性化センター

ハロー にないて
☎ 018-860-2910 E-mail: 2910center1@mail2.pref.akita.jp



建設政策課HP



あきた建設女性ネットワーク
(クローバー) インスタグラム

〒010-8570 秋田県秋田市山王四丁目1番1号 秋田県建設部建設政策課

秋田をこくろる建設人

～ 12 編 の 物 語 ～

The Constructors of Akita
12 stories



カタチと ココロに 残る仕事

建設業には、
まだまだ知られていない魅力と、
はたらく人たちのストーリーがあります。

建設業の魅力をどれくらい知っていますか？

自分の仕事が地図に載ったり、まちをつくり上げたりすることで味わえる達成感。

未来に「残るもの」で、ふるさと・秋田をつくる充実感。

現場代理人のような職種の、年齢や性別に関係なく現場を仕切るやりがい。

大工や建築板金など技能職の、建築物をゼロからカタチにする面白さ。

測量や設計など技術職の、頭脳と体力の両方を磨くことで実感できる自らの成長。

建設業には、まだまだ知られていない魅力があります。

そして、多様な職種ではたらく一人一人のストーリーがあります。

秋田をつくる建設人12名のストーリーを、

「12編の物語」として、一冊のパンフレットにまとめました。

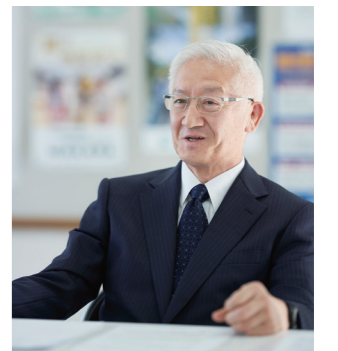
未来の担い手である、みなさんに贈ります。

 建設業界を代表して 保護者の皆さんへ

今、建設業は大きな変革の時。
働きやすく、地域に貢献する、必要とされる仕事へ

今、建設業は大きな変革の時を迎えています。近年の気候変動による自然災害の激甚化、公共インフラの老朽化、高速交通時代の道路の維持、などの対応で社会を守る役割の仕事が増えてきています。その期待に応えるために、新3Kとされる給料・休日・希望の改善を進めて参りました。また県内建設業の多くの企業がワーク・ライフ・バランスの推進や新人フォローアップ研修、資格取得支援などに積極的に取り組んでいます。

社会に必要とされる役割を果たすことで「やりがいのある仕事」「安定した職業」をめざして変革へのチャレンジをすすめて参ります。



一般社団法人
秋田県建設業協会 会長
北林 一成



秋田をこくる建設人

Vol.01

施工管理(建築)

大野実咲さん(20代)
創和建设(株)[横手市]
キャリア3年



いい仕事をするために
明るい雰囲気を作るのも私の仕事
まずは自分が「元気」でいること!

事務所の壁には工事の工程管理表が貼りだされ、現在の進捗状況や日々の作業内容が一目でわかる。責任者の欄に名前があるのが、入社4年目の大野実咲さんだ。現場に出る大野さんはとにかく明るく、ムードメーカー的な存在。創和建设では初の女性技術者ということもあり、彼女が入ったことで現場には「新しい風」が吹いている。



秋田をこくる建設人

Vol.02

測量

佐々木龍馬さん(20代)
(株)石川技研コンサルタント[秋田市]
キャリア7年



向上心と、探求心。
オールラウンドな
技術者という「高み」を
目指す若手エンジニア

秋田県の北部を流れ日本海にそそぐ米代川は、最大支流の阿仁川をはじめ大小84の支流がある。石川技研コンサルタントで測量技術者として働く佐々木龍馬さんは、この米代川水系の河川測量を担当している。努力家で、社内でも仕事の速さと正確さには定評があり、若手ながら責任の大きい仕事を任されている。



仕事の「やりがい」は?

更地に建物がどんどんできていくプロセスを目の当たりにした時は、とても感動しましたね。入社1年目で携わった*雄物川庁舎建設工事では、完成した建物を見て「すごい!」と思いました。工事が完了してお客さんに感謝してもらえたり、地元の方が実際に使ってくださっているのを見たりすると、頑張った良かったなと感じますね。地図アプリで自分が関わった建築物が載っているのを見ると、誇らしい気持ちになりました。当面の目標は2級建築施工管理技士の資格取得ですが、更に経験を積んで、さまざまな建築物に関わりたいと思っています。

建設業界に入ったきっかけは?

ものづくりが好きだったので、総合技術科のある高校に進学し、環境工学を学びました。木材加工や建築に興味があったので、自然と建設業を意識するようになりました。一番のきっかけになったのは、高校生の頃に参加した「よこて建設女子会」ですね。実は、担任の先生に「スイーツも出るらしいよ」と聞いたのもあって、参加したんですけど(笑)。ただ、現場見学会で女性が現場で働く姿が印象的で、私もこんな風に働けたらと思ったのを覚えています。

入社して建設業のイメージが変わった点は?

建設業というと、きつい職場だというイメージがあると思いますが、施工管理の仕事などは、むしろ女性が活躍できる分野だと思います。分からないことがあっても、皆さん優しく教えて下さいますし、明るい方が多くて楽しいので現場の仕事は大好きです。私自身、常に元気であることを心がけています。今後は私が、建設業の魅力を伝えていけたらなと思い、「よこて建設女子会」などのイベントにも積極的に協力しています。私みたいにスイーツ目当てでもいいので、気軽に参加してほしいですね(笑)。きっと建設業に対するイメージが変わると思います!

仕事の「やりがい」は?

測量にも様々あり、自分が従事している路線測量は道路建設や護岸整備などの工事に直結していますし、河川測量も基礎データとしてだけでなく、洪水対策など防災の観点でも活用されています。現在は主に米代川水系の河川測量を担当しているので、流量に変化がある場合、時間に関係なく出勤しなくてははいけません。先日の大雨のときも、二ツ井地域で測量を行いました。夜中の作業は大変ですが、地元の安全を守る大事なデータです。地域のインフラ整備に貢献できる点が一番のやりがいになっています。

建設業界に入ったきっかけは?

高校2年の時、就職のことも考えて土木系の学科に変更しました。建設業に対しては、父親も建設関連の仕事をしていたので、きつそうだけどカッコいいというイメージを持っていましたね。地域に貢献できる仕事だと思ったのが決め手です。実際、夏や冬の外の現場はやはりきついです。入社時は覚えることも多くて大変でしたが、今は大分慣れました。努力次第でいろんなことに挑戦できるという意味で、建設業を選んで良かったなと思います。自分の成長も感じられるので、この仕事が好きですね。

目指す技術者像は?

測量だけでなく、図面やデータも詳しい「オールラウンダー」です。入社して間もないころ、*道路台帳補正測量業務がありました。当時は測量の部分で携わったのですが、もしまた機会があれば図面の作成まで関わってみたいですね。昨今は3Dやドローン技術などのICT技術も普及してきています。測量の現場でも主流になりつつあり、新しい機械も増えていますから、常にスキルアップは欠かせません。まずは、河川点検士や測量士の資格を取得して、少しずつ仕事の幅を広げていきたいです。

キャリアアップ

CAREER UP

2019年
入社

2022年(4年目)
2級建築施工管理技士補
取得

高校2年生の夏休みにインターンシップを経験。卒業後に自分が働くイメージがわいた。

2次試験を11月に控え、忙しい業務の傍ら準備中。合格すれば晴れて2級建築施工管理技士となる。

ココロに残っているプロジェクト

*横手市役所雄物川庁舎
建設工事
(2020年/横手市)

入社1年目の現場。写真管理の業務をこなしながら、新築工事の流れを経験した。完成した建物を見たときの「達成感」を初めて感じた、思い入れのある工事。



キャリアアップ

CAREER UP

2015年
入社

2018年(4年目)
専門学校 測量学科 入学

2019年(5年目)
専門学校 測量学科 卒業
測量士補 取得
UAV安全操縦スペシャリスト 取得

2021年(7年目)
一級小型船舶操縦免許
取得

河川測量および海上での深淺測量において必要なライセンスとして取得

スペシャリストを育成するという社内の教育システムの一環で、専門学校で測量学を学ぶ

ココロに残っているプロジェクト

*道路台帳補正測量業務
(2015-2016年/秋田県)

日本海沿岸東北自動車道(金浦-象潟間)の、道路台帳図作成の際に測量助手として携わった。入社して間もない時期の規模の大きいプロジェクトで、開通前に真新しい高速道路の上を歩いたことが印象に残っている。



大野実咲さんの
もうひとつの
物語



週末は美味しいお酒と家族との時間でリラックス

休日は家でゆっくり過ごすことが多いという大野さん。母娘で買い物に行くこともあれば、お姉さんの子供たちと一緒に遊んだりすることもあるそうで、家族との時間を大切にしている。最近、お酒を嗜むことも覚えたそう。美味しいお酒を飲みながらひとりでお気に入りの映画を見たり、友人と一緒に地元の隠れた名店を探したりするのが週末の楽しみ方だ。「こんどの週末は『よこて建設女子会』のメンバーで飲みに行くですよ」と、話してくれた。女性ネットワークの結びつきの強さの秘密は、こんなところにもあるようだ。



佐々木龍馬さんの
もうひとつの
物語



時間を忘れて釣りに

釣りが趣味だという佐々木さん。天気の良い週末には、高校時代の友人と釣りに出かけている。日常から離れて波の音を聴いているだけでも癒されるのだそう。「小型船舶の免許も取りましたし、いずれは大会にも挑戦してみたいですね。釣りをしている間は、仕事どころか時間がたつのも忘れるくらいです」と、緊張感のある仕事とメリハリをつけてリフレッシュすることで、生活リズムを整えているようだ。





秋田をこくる建設人

Vol.03

施工管理(土木)

松本 有香子さん(20代)
菊地建設(株) [由利本荘市]
キャリア8年



努力した分
スモルアップにつながる
成長のスピードの
カギを握っているのは「自分」



現場代理人として働く松本有香子さんは、責任感が強く、ストイックな姿勢で自分の現場と向き合っている。常に何かを学びとろうとする向上心を持ち、「大きな現場の指揮を執ってみたい」と、まっすぐな目で話す彼女こそ、間違いなく次世代のリーダーだ。



秋田をこくる建設人

Vol.04

施工管理(管工事)

上野 幸大さん(20代)
山二施設工業(株) [秋田市]
キャリア11年



顧客の目線に立って「何を一番に考えて
皆が納得のいくものづくり」を
目指しています



公共施設などの規模の大きい建設工事では複数の業者が共同で工事を行うが、その中で施設設備の現場管理を任されているのが山二施設工業の上野幸大さんだ。その真面目な人柄と、周囲とのコミュニケーションを欠かさない細やかな仕事ぶりには、社内外から高い信頼と期待が寄せられている。

仕事の「やりがい」は?

一番のやりがいは、自分が作った道路や構造物が形として残り、たくさんの人に利用してもらえることです。地元の道路工事だと、知り合いが「すごいね!」と言ってくれたり、工事中に「ありがとう」と声をかけて下さる方もいたりして、利用者の顔が見えるのも、励みになります。工事中は悩むことも、ストレスを感じることも多いですが、完成すると嘘みたいに忘れてしまいます。仕事を通じて自分の成長が感じられる瞬間がある点にも、やりがいを感じています。

仕事で大切にしていることは?

自分の意見をしっかり伝えるようにしています。オペレーターや作業員に指示を出す立場ではありませんが、現場経験では皆さんのほうが私より先輩です。分からないことは聞いて、考え方が違う時はきちんと話し合う。工程が詰まってくると現場の雰囲気はピリピリしがちですが、そういう時こそしっかりコミュニケーションを取っています。自分の仕事で手一杯になると、周囲への気配りも難しくなります。思わぬミスや事故を防ぐためにも、余裕をもって現場を見ながら、良い雰囲気をつくるように心がけています。

今後の目標は?

規模の大きい現場で指揮を執ってみたいという目標を持っています。現在、高速道路の工事に現場技術員として携わっていますが、規模の大きい現場はあらゆる面でレベルが高く、貴重な経験をしています。天候によって予定通りに工事を進めることができない時、現場代理人が的確で無駄のない指示を出し、現場を動かしているのを見ると、私もこんな技術者になりたいと思います。そのためにも、たくさんの経験を積んで成長していかなければと思っています。

仕事の「やりがい」は?

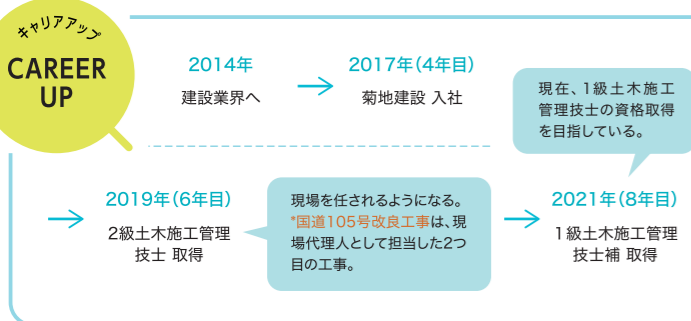
空調や衛生設備の現場管理をしています。分かりやすく言うとエアコンや水回りの設備ですね。配管の図面を作成したり、現場で作業指示を出したり、建築や電気設備など他の業種と一緒に現場をやることも多いので、作業の調整なども仕事のうちです。多くの人と関わる仕事ですので、コミュニケーションをしっかりとって円滑に工事を進められたときは達成感があります。公共の建物など、社会性が高い建物の完成に貢献できることもやりがいです。

仕事を通じて成長した点は?

機械科出身でしたので、入社時は設備に関して全く知識がありませんでした。最初の頃は現場で迷惑をかけてしまうこともあり、仕事を辞めようかと悩んだこともあります。上司や先輩の「まずは最後までやってみよう」という励ましもあり、分からないことはとにかく聞いて、他の人のやり方も見ながら仕事を覚えました。お客様の目線に立つことを一番に考えながら、現場の作業員とも諦めずに話し合うことで、納得のいくものをつくる。現場でのコミュニケーションの大切さを身をもって学んだことが、今の自分の仕事のやり方のベースになっています。

今後の目標は?

現場の規模が大きくなればなるほど、顧客やビジネスパートナーとの信頼関係が重要です。最近は、スムーズにコミュニケーションをとるためにも、他の業種の知識が必要だと痛感しているので、いずれは建築や電気設備の資格取得にも挑戦していきたいですね。気がつけば社内では自分より若い社員も増えてきたので、自分が今まで学んできたことや、顧客目線でのものづくりの大切さを次の世代にも伝えながら、一緒に建設業界を盛り上げていきたいと思っています。



ココロに残っているプロジェクト

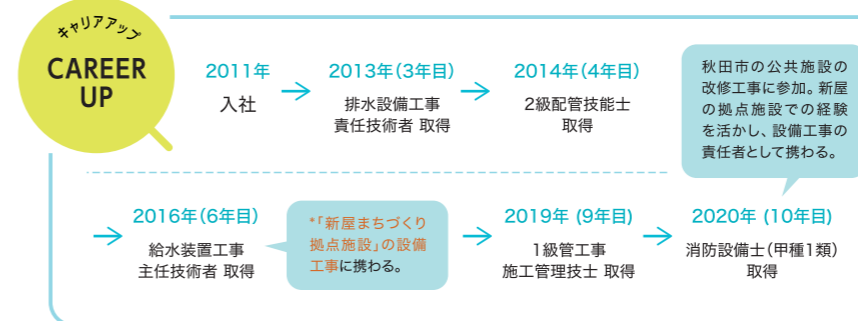
*国道105号改良工事 (2020年/秋田県)

国道105号の嵩上げ工事を担当。交差点が近く道幅も狭いうえ、現道工事のため24Hの片側交通規制が必要。現場代理人として特に安全管理に神経を使った。

松本 有香子さんのもうひとつの物語

大自然の中で楽しむアウトドア

「休日にはアウトドアで過ごすことが多いかな」と話す松本さん。愛犬を連れてドライブを楽しんだり、気の合う仲間とキャンプや BBQ をしたりして過ごすそう。キャンプに行ったら、自分の持ち場に徹しています(笑)とのこと。キャンプでも自分の役割をしっかりとこなすのが、松本さんのルールだ。



ココロに残っているプロジェクト

*新屋まちづくり拠点施設 機械設備工事 (2016年/秋田市)

ガラス工房をはじめとするものづくりの地域交流施設の建設現場。デザイン性の高い建築物で、顧客の要望に応えながら納得のいく設備の納め方や仕上げに、現場代理人とともに試行錯誤を重ねた。

上野 幸大さんのもうひとつの物語

地元のイベントやスポーツ観戦を楽しんでいます

「休日ですか?奥さんと一緒に過ごすかな...普通です」と、上野さん。仕事とプライベートはしっかり分けることを会社側も推奨していて、休みも取りやすく、時々スポーツ観戦チケットの抽選があるなど、福利厚生も手厚いそう。どんなことをして過ごすかを尋ねると、「食事に行ったり、花火を見に行ったり。あとは、チケットが当たれば野球やバスケの試合を見に行ったりもしますね」と、「普通に」充実のプライベートを過ごしているようだ。



秋田をこくる建設人

Vol.05

施工管理(土木)

岩淵 安寿子さん(30代)
(株)佐藤庫組[北秋田市]
キャリア19年



コミュニケーションの基本は笑顔
背伸びせずプロフェッショナルに
自分らしく働く

信頼の厚いリーダーとして、現場をまとめる岩淵安寿子さん。彼女が現場に現れると、周りの皆が自然と笑顔になる。土木工事の現場において、女性の現場監督はまだ少ないのが現状だ。笑顔でイキイキと働く岩淵さんに、建設業の魅力や働き方を聞いてみた。



秋田をこくる建設人

Vol.06

施工管理(土木)

荒川 拓也さん(30代)
田中建設(株)[三種町]
キャリア20年



やるべきことをきっちりやる
そのうえでプラスアルファの
工夫をするのが自分流

目の前のことを着実にこなすことをモットーに、現場管理として働く荒川拓也さん。近年導入されたICT技術の活用により建設業の将来性を感じ、意欲をみせている。苦勞することも多いのではないかと聞くと、他業者も含め現場一丸となって新たな試みに挑戦できるのが楽しいとのこと。キャリア21年目にして挑戦を忘れない姿が印象に残った。

仕事の「やりがい」は？

やはり自分が携わった構造物が形として残ることですね。少し前に開通した***鷹巣西道路整備工事**では監理技術者として携わりましたが、完成した時の「できた!」という達成感が格別です。できたばかりの道路を走るの、苦勞したことも全部忘れてしまうくらい爽快ですよ!作業中に道沿いから声をかけてもらうこともあり、日々のやりがいにつながっています。豪雨災害時には会社をあげて復旧作業にあたることもあります。地域のインフラ整備に携わる地元企業の一員として、責任と誇りを感じています。

建設業界に入ったきっかけは？

高校生のとき、女性技術者を採用したいと会社から声をかけてもらったことがきっかけですが、一番の理由はその時に見学した「現場」です。国土交通省の河川工事で、そのスケールの大きさに圧倒され、「建設業ってすごい!」と感動しました。初めて現場監督を任せられたのは、入社4年目の下水道工事です。いざ責任者として現場に入ると、分からないことばかり。周りに「教えて下さい」と頭を下げ、ひとつひとつ教えてもらいました。現場が終わると会社でのデスクワークが待っています。測量も担当していたので、座標計算の仕事も多くて…。今はパソコンで座標を入力して計算しますが、当時は測量電卓を使って計算する時代。毎日クタクタでしたね。

入社当初と比べて、変化した点は？

「働き方」は、出産や子育てを機に変わりましたが、何より会社がバックアップしてくれ、産休と育休の制度をフルに活用したのも、時短で働いたのも私が初めてと聞いています。仕事は「限られた時間の中で集中して終える!」と決め、以前より余裕をもってスケジュールを組むようになりました。土木とひとことで言っても工事の種類、工法は様々です。まだまだ至らない点もありますが、今となっては質問される立場。チームメンバーに信頼してもらうためにも、常に新しい技術や知識を学ぶ姿勢を持ち続けなくてはと思っています。

仕事の「やりがい」は？

建設業に限ったことではないですが、仕事とは「やるべきことをきっちりやる」、これに尽きます。それでもやはり、規模の大きな工事は責任も大きい分、やりがいもありますし、完成した道路は自分も使うので実感も湧きやすいですね。最近は、測量をドローンで行うなど、ICT技術を活用した工事が増えてきました。アナログ作業に比べて、労力も時間も大幅に効率化され、現場にも余裕が生まれることで、労働環境もさらに良くなっていくと思いますし、建設業の新しい魅力になるのでは期待しています。

印象に残った仕事は何ですか？

最初に責任者として担当した治山工事です。それまでは現場に行けば仕事があったので、それをこなせばよかったのですが、その工事は、施工計画を作って着工するまでの調整が大変だったので印象に残っています。あとは、施工箇所が点在型の工事でも苦勞することが多いですね。現場の数だけ協議事項があっても、体はひとつですから。経験を重ねた今では、調整も大分スムーズに進められるようになり、工種によって自分なりにプラスアルファの工夫を提案できる余裕も生まれ、仕事が面白いと思えるようになりました。

ICT技術の活用について

今担当している***米代川鶴形地区高水敷整正工事**がまさにICTによる施工事例のひとつです。作業効率や測量の精度の面でも大きな手応えを感じています。例えば、これまでやってきた測量による丁張り作業の代わりに、精度の高い3Dデータを使って作業しています。GPSデータのずれなど小さなトラブルもありますが、間違いも少なくなり、確実に工期の短縮につながっています。ソフトウェアの使い方や、建設機械の操作など、ひとつひとつ手探りしている最中ですが、12月の工期完了までにぜひともマスターしたいですね。

キャリアアップ

CAREER UP

2003年 入社 → 2009年(7年目) 2級土木施工管理技士 取得

2009年1月 長男出産 (2008年12月~2010年1月まで産休・育休)

→ 2014年(12年目) 2級舗装施工管理技術者 取得 → 2018年(16年目) 1級土木施工管理技士 取得

2012年4月 次男出産 (2012年3月~2013年4月まで産休・育休) 2014年11月 長女出産 (2014年10月~2015年11月まで産休・育休)

ココロに残っているプロジェクト

***鷹巣西道路整備工事** (2019~2020年)

工事の工期も長く、スケールも大きい空港道路の工事。複雑な工程を複数の建設業者と協力して進めるため、監理技術者としての腕が問われた。



キャリアアップ

CAREER UP

2002年 入社 → 2005年(4年目) 2級土木施工管理技士 取得

2006年に初めて責任者として三種町谷地ノ沢での治山工事を担当した。

→ 2011年(10年目) 1級土木施工管理技士 取得 → 2022年(21年目)

初めてICT活用工事(i-Construction)に現場管理として関わっている

ココロに残っているプロジェクト

***米代川鶴形地区高水敷整正工事** (2022年/国土交通省)

ドローンを使用した起工測量や、クラウド上で管理する3Dデータを活用して進める工事を経験。作業効率や測量精度が格段に向上することを実感。



岩淵 安寿子さんの
もうひとつの
物語

家族みんなで野球の応援に!

息子さんが野球部に所属している岩淵さん。練習や大会のサポートや送り迎えもあり、毎日忙しい。会社の協力もあり、仕事は定時で終わらせて子ども達を迎えに行く。「ユニフォームが汚れていない日は『ホントに練習してきたの?』と言ってしまふんですね。職業柄かな?近々大会があるので家族みんなで応援に行くんですよ」と、嬉しそうに話す。野球を頑張るお子さんの姿に、岩淵さんが元気をもらっているようだ。



荒川 拓也さんの
もうひとつの
物語

親子で晴れの舞台・全国大会へ

8月は中学3年生の息子さんの部活のサポートに明け暮れたという荒川さん。それもそのはず、息子さんは全国ベスト8の成績を収めた強豪バスケット部に所属しているとのこと。「全国大会で北海道に行きました。コロナ禍が続くなか、久しぶりに堂々と試合ができて、子どもたちにとっても良かったんじゃないかな」と、少し誇らしげに写真を見せてくれた。親子で一緒に迎えた晴れ舞台、今夏の最高の思い出になったようだ。



秋田をこくる建設人
Vol.07

土木設計

田中清佳さん(40代)
創和技術(株)[秋田市]
キャリア18年



「見えない」インフラ整備
地域の安全と暮らしを守る
それが私のやりがいです



道路や河川のインフラ設計の現場で、土木構造工学の専門性を活かして活躍する女性技術者がいる。創和技術の田中清佳さんだ。建設コンサルタントという職業について聞くと、穏やかな笑顔から一変、技術者としての顔に変わる。

仕事の「やりがい」は？

建設業という建物や道路を作ることだと思われがちですが、規模の大きな建造物や工事であればあるほど、前工程のプランニングの段階も複雑です。顧客に、より良い選択をしてもらえるように提案をしたり、専門的なアドバイスをしたりすることも、建設コンサルタントの役割です。私は主に、堤防等河川関連の構造物設計や土砂災害時のハザードマップの作成に携わることが多いですが、いずれも、いざという時に人の命に直結する仕事です。大きな責任を感じるとともに、地域の安全や暮らしを守ることに貢献できていると感じられるのが、私にとっては一番やりがいを感じられる点です。

建設業界に入ったきっかけは？

数学などの理系の科目が好きで、建築や土木などの「ものづくり」にも興味があったので、大学院で土木環境工学を専攻しました。図面をひいたり計算したりするのがカッコいいなと思ったのと、学んだ構造系の知識も活かせると思って、土木設計の仕事を選びました。ものづくりのスケールが大きくて楽しいですよ。土木を選んで良かったと思っています。建設業というのは、リレーのようなものです。私が設計した図面を、工事屋さんに渡して、そして形になっていく。自分の担当する仕事が終わった時の達成感はもちろんですが、完成した構造物を眺めていると実感が湧いてきます。自分の頭の中にしかなかったものが目の前に実体として現れる、これは土木設計の魅力ですね。

印象に残った仕事は何ですか？

2019年に携わった*土砂災害防止法に伴う基礎調査です。実際ハザードマップの作成だけではなく、現地調査に入る前の調整から、地元での説明会まで、全てのフェーズに関わりました。人前で話すのが苦手なので、大変なこともありましたが、終わってみるといろんな人と関わりを持つことができ良い経験になりましたね。災害は起こらないことが一番ですが、もしもの時に私が作成したマップが少しでも役に立ってくればなど。ハザードマップの作成は、機会がある限り携わっていきたい仕事ですね。



秋田をこくる建設人
Vol.08

建築板金

佐藤優也さん(30代)
(株)剛板金[秋田市]
キャリア10年



時代が変わっても変わらない技と、
時代に合わせ変えていく技
機械化が進むほど光るのが「職人技」

板金工としての父親の背中を、幼いころから見て育った佐藤優也さん。高校卒業後いったん地元を離れたが、秋田に戻り家業の板金の道に入った。真剣なまなざしで職人へのリスペクトを語ったかと思えば、「自分も『難しいことにどんどん挑戦したい』と言った方がいいのかな?」と笑いながらインタビューに答える姿は、いかにも新しい時代の建築板金職人だ。

仕事の「やりがい」は？

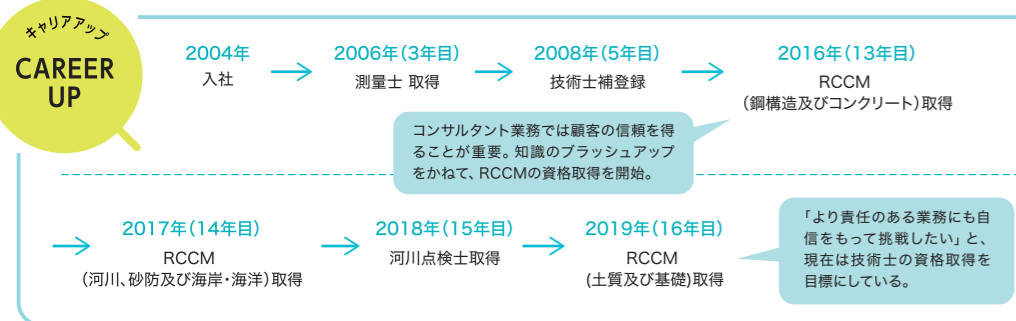
職人技というか、手作業でしかできない仕事という点ですね。古い家の屋根の改修に行くと、昔の職人たちの仕事が見えてくるようで面白いです。昔の屋根は作りが複雑なんです。同時に、横にいる親父がそういうやり方をよく理解しているのを見ると、昔の職人なら通る道なんだろうなと、経験の差を感じます。心の中では「負けたくない」と思っていますが、そこはまだまだ実績が足りないんで、今はひとつひとつの仕事をきれいに仕上げることに集中しています。

建築板金の仕事とは？

建築板金にもいろいろありますが、うちは主に屋根板金をやっています。雨樋、雪止め、水切り、破風など、屋根に関することをやる「屋根屋」です。住宅の新築工事が多いですが、改修工事もやります。2021年の冬、秋田市の民間企業の*倉庫屋根修繕工事に入ったことがあります。通常、カバー工法で施工しますが、この時は悪天候で既存の屋根がはがされてしまっていたこともあり、結局下地の鉄骨から修繕する大工事になりました。幸い天候とチームワークに恵まれ、数日のうちに復旧できました。

目指す職人像は？

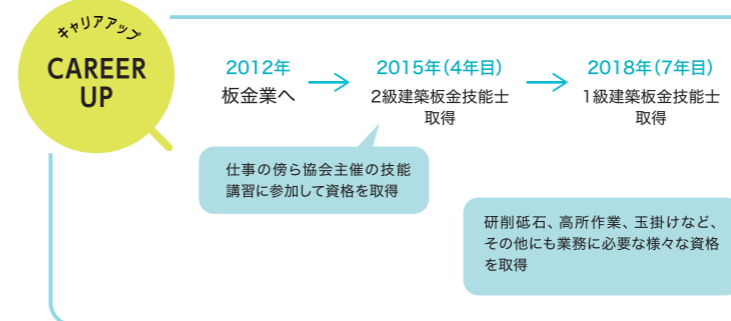
昔ながらの職人たちは、屋根屋であっても大工仕事もするし、電気関係も詳しいんですよ。そういうのを見ていると、自分ももっと建築全般について勉強してみたいなと思います。屋根の仕事は、必ず塗装や下地の修理のような他の工事も絡んでくるので、知識をつけて柔軟に対応できたらいいですね。ただ、広く浅くではダメなので、まずは屋根に関して極めていかないといいと思います。まだまだ分からないことも多いですけど、経験が増えれば、自信に変わっていくと信じて、日々できることをやる。それを繰り返すしかないなと思います。



ココロに残っているプロジェクト

*土砂災害防止法に伴う基礎調査 (2019~2020年/秋田県)

調査前の調整から、ハザードマップの作成、地元説明会の開催など、一連の業務を責任者として担当。



ココロに残っているプロジェクト

*倉庫屋根修繕工事 (2021年/民間企業)

冬の悪天候により倉庫の屋根が被害を受け、年始早々の工事となった。普段の住宅の屋根と違い、鉄骨造りの大規模な修繕だったため、印象に残っている。

田中清佳さんのもうひとつの物語

“Shall We Dance?”

趣味の社交ダンスを長年続けているという田中さん。「数年前に選手登録をして、大会にも挑戦し始めました。ラテンの競技ダンスをやっています」と、話してくれた。創和技術では「ノー残業デー」の取り組みがあり、平日のレッスンにも通いやすいのだそう。週に一度のダンスレッスンの日は、田中さんにとって息抜きの場となっているようだ。

佐藤優也さんのもうひとつの物語

受け継がれる子育ての言葉

「好きなことをやればいい」という父親の言葉もあり、小学生の頃からサッカー一筋。秋田県の強豪校に進学し、全国大会経験もある佐藤さん。今も子育ての傍ら、社会人サッカーやフットサルで時々汗を流している。息子さんにもサッカーをやってほしいかとの問いに、「やってもらいたいなとも思いますけど、でも自分の好きなことを見つけてくれたら、それでいいかな」と笑った。父の言葉は、佐藤さんの子育てにも受け継がれている。



秋田をこくる建設人

Vol.09

事務

高瀬 あゆみさん(20代)
(株)和賀組[湯沢市]
キャリア10年



「和賀組」の魅力、
そして「建設業」の魅力
を
もっとたくさんの人に
知ってもらいたい！

創業145周年を迎える和賀組は地元の建設業のいわば「顔」。入社前は建設業の「け」の字も知らなかったという高瀬あゆみさんだが、建設業や和賀組の魅力について聞くと、とたんに目を輝かせて語りだす。事務として自分の仕事をこなすだけではなく、会社や周りの役に立ちたいという、控えめながらも強い意志が伝わってくる。



秋田をこくる建設人

Vol.10

オペレーター・
道路維持管理

鈴木 和也さん(40代)
万六建設(株)[仙北市]
キャリア22年



「道路のことなら俺に聞け！」
胸を張って言う
エキスパートを目指して



秋田市と盛岡市を結ぶ国道46号は、文字通り秋田県を横断する地域の大動脈。この国道の秋田県側の維持管理を行っているのが万六建設の鈴木和也さんだ。「汗のかける仕事が好き」と飛び込んだ建設業でキャリアを積み、今は地域の暮らしを守る仕事に責任とやりがいを感じている。

仕事の「やりがい」は？

私自身が従事しているのは主に事務作業なので、「何かを作りあげる」というようなやりがいではないのですが、日々の業務をスケジュール通りにこなす達成感のほかに、社内で頼ってもらえたり、感謝されたりすると嬉しいですし、やりがいを感じます。最近は、現場を勉強する機会も増えてきたので、もっと現場の声を拾い上げて、働きやすい職場環境づくりにつなげていけたらと思います。現場のサポート役として貢献できたときに、この仕事をしていてよかったなと感じます。

働きやすい職場環境づくりについて

社員の健康があってこそ会社だという考え方のもと、当社は健康経営に力を入れています。例えば「禁煙手当」などのユニークな手当もあるんですよ。健康診断の結果も厳しく受けとめて指導していますし、そのおかげで社員の命が助かったケースもありました。取り組みの甲斐もあり、2018年から健康経営優良法人として認定をうけていますし、2021年度はプライト500にも認定されました。社内の制度を整えることで、職場環境は変えられます。今後は気づいたことを会社に提案して、社員の皆さんや会社にご貢献していきたいですね。

建設業における女性活躍について

建設業界の中でも当社は、女性社員や若手が多いほうだと思います。社員を大切にしてくれる文化があり、それが働きやすさにつながっているのかなと。私自身、入社時には周りの皆さんが温かく迎えてくれましたし、結婚や出産を通じて改めて制度面でも働きやすい環境が整っていると感じました。当社に限らず、実は建設業は女性が活躍できる場も多いし、キャリアアップの機会もたくさんあるのですが、そういった魅力がなかなか伝わらなくて…。それもあって最近YouTubeを通じて、建設業界の素顔を伝える活動もしていますので、ぜひ覗いてみてください！

仕事の「やりがい」は？

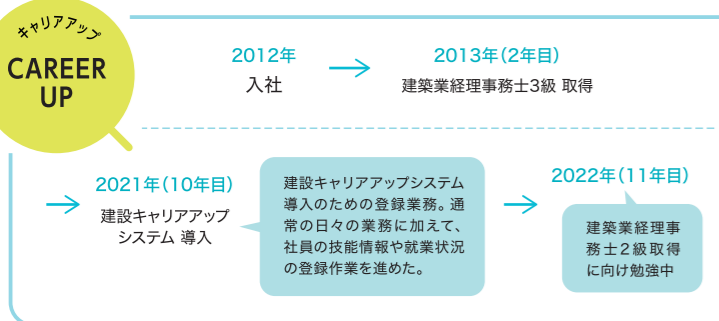
作業していると沿道の住民の方が声をかけてくれます。やはり直接「ありがとう」と言ってもらえると力が出ますね。小さなことの積み重ねですが、道路の補修や除雪、管理を通じて地域の安全と暮らしを守るのに貢献できているなと思うと、やりがいを感じます。入社4年目、新潟県に「砂防災害復旧工事」のため長期出張した際に、建設業は地域の暮らしを支えていると強く実感しました。自分の仕事は「誰かのためになっている」という気持ちは、やりがいにつながっている気がします。

仕事で大切にしていることは？

安全第一で作業を進めることですね。安全に対する意識は、自分ひとりが気を付けているだけではダメです。危険予知活動のリーダーとして、気づいたことは事前に共有して、現場でも臨機応変に対応できるようにしています。そのために重要になるのが、コミュニケーション。安全面だけでなく、作業を円滑に進めるためにも大切です。うまく連携が取れないと、時間内に終わらせず迷惑をかけるだけでなく、暗くなって事故を起こす確率も高くなります。全員が共通の認識をもって作業にあたっているかどうかは常に気にしています。

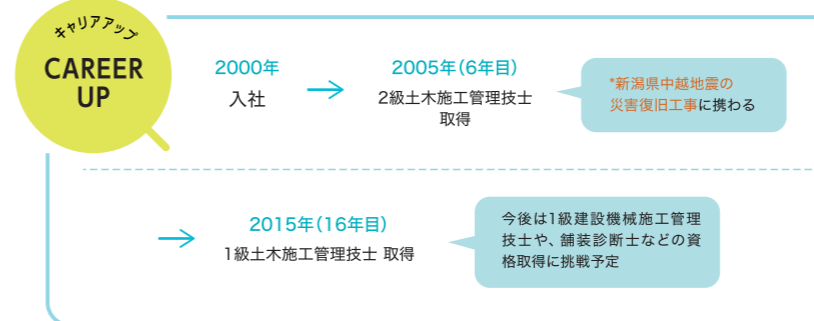
これから挑戦したいことは？

資格取得などを通じて、自身のスキルアップを図っていききたいですね。機械オペレーターや除雪オペレーターとしても仕事をしているので、機械についての知識や技術を身につけたいと思っています。あとは、舗装などの技術だったり、道路そのものの知識だったり…いい仕事をするためには勉強が欠かせません。将来は「道路のことならなんでも俺に聞け」と胸を張って言えるような、道路維持管理のエキスパートになりたいですね。



ココロに残っているプロジェクト
*女性パトロール (2021年〜/自社)
女性の目線での「気づき」を取り入れ、安全確保のために活かすことを目的とした取り組み。現場を理解することにより、状況に応じた気遣いができるようになった。普段のバックオフィスでの仕事にもメリットを感じている。

高瀬 あゆみさんのもうひとつの物語
週末はゆっくり & のんびり
週末が近くなるにつれ、疲れもたまってくるというもの。「土曜日の朝は、とにかく寝られるだけ寝ています(笑)。でも子供に起こされちゃうんですけどね」と笑って話す高瀬さんには、1歳4ヶ月になるお子さんがいる。週末はなるべくゆったりスタートして、家族で公園を散歩したり、買い物をしてのんびり過ごすようにしている。しっかり充電できると、「また頑張ろう!」という気力が湧くそうだ。



ココロに残っているプロジェクト
*砂防災害復旧工事 (2004年/新潟県)
新潟県中越地震の災害復旧のための砂防えん堤工事。長期間の出張のため慣れない環境で苦労もあったが、道路以外の現場で様々な工種を経験したことで、自身のスキルのベースとなった。

鈴木 和也さんのもうひとつの物語
家族の絆は「バスケット」
学生時代はバスケット部に所属して汗を流していたという鈴木さん。以前は家族で地元のバスケット部の試合を見に行くことも多かったそう。現在は、娘さんがバスケット部で頑張っていることもあり、週末は練習試合や大会で忙しい。さぞかし熱が入ってサポートしているかと思いきや、「いや、そんなことないですよ。バスケをやっているだけで嬉しいので」と、控えめ。後ろから見守りながら、何か困っているときに相談に乗るのが鈴木さん流の応援だそう。どこか鈴木さんの仕事に対する姿勢と重なって見えた気がした。



秋田をこくる建設人
Vol.11


大工
高橋 さやかさん(30代)
佐藤工建[羽後町]
キャリア17年



だんだん出来上がっていきモノ
お客様や現場の仲間との
コミュニケーション
その両方が面白い



大工一筋・18年目のキャリアを迎える高橋さやかさん。明るく、気さくな人柄で、いつも現場の笑い声の中心にいる。その人柄とコミュニケーション力は、建設業の仕事に活かされているだけでなく、「モノ」づくりの枠を超え、数々の「コト」づくりにも繋がっていると、インタビューを通して感じた。



秋田をこくる建設人
Vol.12

施工管理(建築)
村木 繁さん(40代)
(株)田中建設[鹿角市]
キャリア28年



大工さんが輝く瞬間と
お客さんのよろこぶ顔
それが見たくて
家づくりをします



住宅建設の現場管理として働く村木繁さん。幼少の頃に見た上棟式、活気ある現場の雰囲気とそこで働く大工たちの姿がキャリアの原点だ。かつて憧れた家づくりの光景の中で、今では職人たちから楽しそうに声をかけられている。真面目な人柄と仕事ぶりに、職人たちからも厚い信頼を寄せられていることがよくわかる。

仕事の「やりがい」は？

私は建築大工なので一般住宅や学校などの建設に携わることが多いですが、どんな現場でも施主さんとの「コミュニケーション」を大切にしています。例えば高齢の方が住む家を建てる時は、ご本人と対面して手すりの高さなどに配慮します。また、国の教育指導（A4教材の導入）を機にサイズアップされるようになったランドセルに合わせて、***小学校の収納をリフォーム**したときも、事前に子どもたちの声を聞きました。丁寧に要望を聞いてつくったモノに対して施主さんが「ありがとう」と言ってくれたとき、この仕事の面白さとやりがいを実感しますね。

建設業界に入ったきっかけは？

もともと父が大工の棟梁をしていました。私は小さい頃から職人さんたちが作業している姿を見てきたので、建設業の仕事に身近に感じながら育ったのです。大工さんたちの、あるときは真剣な表情で、またあるときはワイワイ楽しく現場で働く姿に憧れて、高校卒業後に入職しました。当時、私と同じ女性従事者はかなり少なかったと思いますが、男性の先輩方が親切に私の質問に答えてくれたり、「俺の技術をさやかに全部、授けてやる」と言ってくれたりしたので、不安は一切ありませんでした。むしろ大切に育ててくれて、感謝しかありません。

これから挑戦したいことは？

一般住宅の墨付け（大工が図面を見ながら土台や柱、梁となる木材に、加工のための目印を付ける作業）が、今の課題です。墨付けは、平面図から構造物のイメージを立体的に描くのが、とても難しい作業。図面に描かれていない「あそび」部分までしっかり読み取れるようになるには、現場経験をもっと積んで「勘」を鍛える必要があると思っています。墨付け技術を磨き、職人レベルの大工になりたい。また、キャリア18年目を迎えたので、後輩の育成にも挑戦しています。先輩方が私にしてくれたように、今度は私が後輩を大切に育てていこうと思います。

仕事の「やりがい」は？

出来上がった住宅が形として残ることはもちろんですが、私の場合、大工さんや職人さんと一緒に住宅づくりができること自体がやりがいになっています。若いころは、家ができた過程や現場が楽しくて仕事をしていましたが、今はどちらかというと皆のサポート役として裏方に徹することで建物が出来上がっていくのが嬉しいです。完成してお客さんに感謝されることも嬉しいです。この業界に入って28年になりますが、住宅建設は奥が深いと感じますし、それも魅力のひとつです。

仕事で大切にしていることは？

現場の安全確認、日々の点検などの確認作業が一番大切だと思うようになりました。逆に現場がうまく回っている時ほど、何かを見落とししているのではないかと不安になります。そして、ビジネスパートナーである大工さんや職人の方がやりやすいように気を配ることも大切にしていますね。住宅づくりは表から見えない部分が重要。お客さんにとって人生最大の買い物だからこそ、見えていない部分には手を抜かない、自分がしっかりと現場で目を配らないといけない、そう思って仕事をしています。

家づくりの魅力は？

お客さんの要望に沿って、職人の技でひとつひとつ作りあげるのが、家づくりの最大の魅力ではないかと思います。最近では、在来工法と違って組み立て型の施工も多くなってきましたが、当社は最初から最後まで職人さんの手で作る住宅にこだわっています。「理想の家づくり」があるとして、たとえ100軒建てても自分には答えが出せない気がしていますね。だからこそ、そこに近づけていく努力をしていくのが自分の仕事なのかなと思っています。

キャリアアップ
CAREER UP

2005年 入社 → 2011年(7年目) 2級建築施工管理技士 取得 → 2016年(12年目) 1級建築大工技士 取得

はじめての資格試験はちょびり手強くない？
2度目の挑戦で見事合格。

資格試験勉強中、地元・羽後町の大工技能組合の皆さんが作業場を貸し出したり、技能練習に必要な材料を集めたりして高橋さんを応援。皆さんのあたたかさは何よりの励みになった。

ココロに残っているプロジェクト

*地元小学校での収納リフォーム (2015年/羽後町)

A4教材の導入により、2011年から小学生のランドセルもサイズアップ。高橋さんは地元小学校で子どもたちの声を聞き、収納を容量の大きいものにリフォームした。



キャリアアップ
CAREER UP

1994年 専門学校で建築を学び、卒業後住宅建設業へ → 2005年(12年目) 2級建築士 取得

主に施工管理を実務でも担当することが多いため1級建築施工管理技士の資格を取得。

2007年(14年目) (株)田中建設 入社 → 2018年(25年目) 1級建築施工管理技士 取得

青森県で住宅建設に従事していたが、縁あってAターン。同じ住宅業界で働くことができる点が決め手になり、地元へ戻ることを決意。

ココロに残っているプロジェクト

住宅建設 (2018年/北秋田市)


隣接する北秋田市での住宅建設。現場管理だけでなく、普段の案件よりお客さんとコミュニケーションを取る機会が増えたこともあって、完成時にお客さんから直接感謝されたことが印象に残っている。



高橋 さやかさんのもうひとつの物語

休日の楽しみは、家族・愛犬と一緒に過ごす「トキ」

高橋さんの職場はワークライフバランス推進に積極的で、休みも取得しやすいそう。小学生の息子を持つ高橋さん。休日はその息子さんと一緒に過ごすことがほとんどだと言う。愛犬の散歩や買い物は当たり前で、ときには山菜採りにまで親子で出かけるほど仲が良い。気力と体力の要る、大工職人の仕事。高橋さんを支えているのは、この休日の、家族・愛犬と一緒に笑って過ごす「トキ」なのだろう。



村木 繁さんのもうひとつの物語

地元で家族と過ごす時間が「癒し」

秋田にAターンして15年の村木さん。この間、結婚して子供が生まれ3児の父となり、生活は大きく変わったという。近年はコロナ禍で家族そろって外出する機会は減ったというが、天気の良い休日には十和田湖までドライブに出かけたりもするそうだ。インタビューの最後、花輪ばやしのポスターを前にして「やっぱり祭りはいいですね。子供たちにも見せたいです」と、高校卒業とともに一度は離れた地元・鹿角への愛着をのぞかせた。

